

宗教虐待

宗教団体「エホバの証人」や統一教会(世界平和统一家庭連合)の眞教(2世・3世)ひいては「一般社団法人ペーネロップ」など複数の団体が連名で2日、宗教を背景としたむち打ちや輪廻把柄の児童虐待防止をエホバに対して強い求めで西田を発表しました。



**信者2世団体が声明
むち打ち・輸血拒否問題“極めて不十分”**

待防止には極めて不十分だと批判。そのうえで王ホバに對し、△教団がこれまでもむれを推奨していた事實を公式に認め、むちどよりの虐待を行わない▽虐待を受けたすべての2世、3世の「謝罪する▽輸血を含め、医師が必要と判断した医療行為を子どもに受けさせれる▽医療行為を受けさせた結果、その決定をした親や家族に對し一切諒わらない断絶や排斥、教団内での地位はく奪などの処分をしない▽未成年信者が他の信者との交流を行わないことを要求、一切禁止される問題を

任意団体「J.W児童虐待被害アーカイブ」代表の綿和季さん（仮名）は、高校生の頃に同年齢の女性傷者が工ホバから受けた「排糞」の処分に触れ、「私たちの世代でこの問題

22日、厚生労働省で会見したブノードコツ代表の田野ななさん(仮名)は「現在被害に遭っている子どもたちはもちろん、成人した現在も苦しんでいる被害者也非常に多い。そういう人たちへの支援についても積極的な議論がされる」とを望みます」と語りました。

「うたはひむねは
えがした。